

「美濃紙布」の素材概要

1. 美濃和紙

美濃和紙は、古くは「正倉院文書」に於いて、当時の戸籍用紙が美濃和紙であったことが記されており、各地で作られた溜め漉きの和紙の中でも品質が良いことでも知られていました。1300年も前から美濃には優れた製紙技術が存在し、今もその技術は脈々と受け継がれています。

(正倉院所蔵の西暦702年(大宝2年)美濃国戸籍断簡が現存最古の美濃和紙)

2. 美濃和紙糸の特徴



和紙糸はフィラメント (長繊維)です

毛羽が無く肌触りは快適です。
アトピーにも刺激がありません。

吸湿効果によるドライ感

和紙糸は多孔構造(紙漉のとき繊維が絡み合う)コットンの6倍の吸湿性。
吸湿効果によるバクテリアを抑えた防臭効果。
通気性が良くムレ無い。

軽さと、ハリ・コシ感

糸が軽く製品も軽量化が可能。
(多くの繊維との交織、交編に最適)
サラサラ感と、爽やかなハリ・コシ感。

保温性と制電性

多孔構造により保温性が高く、冬の衣料にも使用出来る。
制電生により静電気も起きにくい。

強さと耐久性

強い糸である。
耐久性に優れている。

生分解性

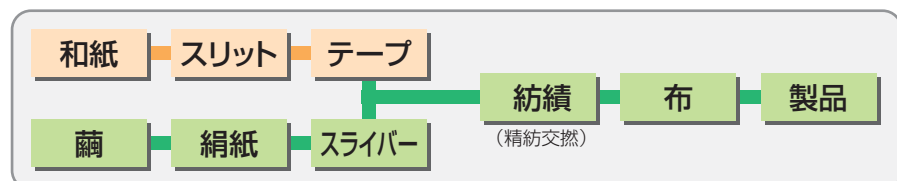
土中で生分解する。
焼却処分可能。
環境に優しい。



3. 美濃紙布と精紡交擦

美濃の伝統的な原材料「美濃和紙」と現代の技術“精紡交擦(カワボウ繊維株式会社の特許)”が新しい素材表情を創りだします。精紡交擦は一般の交擦と違い原材料そのものの特性を活かし糸がソフトでしなやかなる紡績技術です。そのため和紙糸の特性と、他の繊維の特性が糸に生かされ洗練された表情と風合いが素材に生まれます。

■精紡交擦のしくみ



■混率 / 指定外繊維(美濃和紙) 60%
コットン(綿) 40%

4. 美濃紙布の扱い易さ

紙布でありながらも洗濯でき、通常の素材として扱える新素材。
(ドライクリーニングをご指定下さい)